



町長の施政方針

—これからの町づくりに町民の皆さまの声を—

平成六年度の方針を決める三月議会は、三月十一日招集され、新年度予算をはじめ行政運営に必要な条例案等を審議しました。第一日目に町長から平成六年度における施政方針と予算編成、主要案件について説明がありました。

顧みて平成五年度は諸事多端な年でありました。慢性的な経済不況が続くなかで、異常気象による多雨冷夏の悪影響がおり、遂には外国産米の緊急輸入という憂慮すべき状況と、併せてガットウルグアイラウンドによる米のミニマムアクセスを容認せざるを得ない事態となり、米作農家は大きな痛手を受けることとなりました。これらにより農業生産意欲の後退や耕地の荒廃、農業経済の危機的状況などの顕現を抑制するためにも、抜本的対策の必要性が迫られております。これらの対策につきましては全力を挙げて関係機関及び諸団体等との連携を更に強化して農業振興に係る計画の策定を進めてまいりたいと思っております。

一方、政府の打ち出した景気浮揚対策は第一次・第二次・第三次と追加補正による公共事業の促進が図られており、当町ではそれらの施策に対して一〇〇％の対応を致しているところであります。また、施策として所得税減税や大型経済対策費が導入されることになりましたので、これによる当町地域の産業経済の進展につながることを期待して止みません。ただし、当町の予算編成時には交付税や補助金等の財源に不透明感があり、自ずから消極的にならざるを得ない状況がありました。財源の内訳としては自主財源として前年比四・二四％減、普通交付税は四・四八％増、そして特別交付税は七千万円を想定してこれを基本として予算組みをいたしました。

また、事業については継続的な国・県関連事業は積極的に進めてまいりますし、町単独事業についてはその重要性・必要性を勘案して順位を定めて予算を編成いたしました結果、一般会計予算は総額四億四千三百万円となり前年比五・四％増となりました。

ではありましたが、「生き生きとした活力のある町づくり・きめ細かな福祉のある町づくり」を推進するために積極的に取り組み、当初予算において前年比増となった次第ですが、町単独事業についても継続的なものが優先されており、いざいざもこの数年間のうちに着手・着工したものであり、正に芽がはじけた植物を育てていく過程と申してよろしいかと思っております。

また、新規の事業につきましては歳入見込みの不確定さからやや手控えざるを得ませんでした。今後の財政状況の推移をみながら、早急性を要するものから復活し、取り上げてまいりたいと思っております。

予算編成について

懸案事業について

広域圏関連事業について

農業者の不安

伝・普及の一助としてまいります。併せて、花とみどりに係る各イベント等につきましても、極力支援をし、花とみどりの町のPRに努めてまいります。

商店街の活性化対策としては、県の商店街のリフレッシュ事業に地元のご協力を得て本町一丁目の街灯の設置を行う明るい町並みづくりに協力し、助成してまいります。

また、本町通りの町県道振替によるメリットを生かす為に、商工会・地元との協議・協力を進め、商店街活性化の為に努力してまいります。

建設事業関連につきましては、町道小須戸一七号線（小須戸保育園前）の建設が行われておりますが、国の第一次・第二次補正により進捗しておりますし、同道路の延長工事につきまして、早期完成に向けて努力してまいります。また、県道新津・茨曾根・燕線のうちこき地内・新津に向かって新たにフラワールoadを県事業でお願いしてありますが、本年度も継続して延長工事をして頂くよう努めてまいります。

地域おこし関連事業については、昨年四月に「花とみどりのシンボルゾーン」計画の一区画が完成・オープンいたしました。本年は農村総合整備モデル事業

町単独事業としては、テストケースとして若葉町から文京町までの排水路を歩道として整備改良する「ふれあい道路」の建設を行っておりますが、本年度はさらに諏訪町に向かって整備を進めてまいります。また、新保地内・新保竜玄二号線の水路を道路として披巾し、交通の安全・利便を計る為、整備してまいります。

福祉の関係については、念願のデイサービスセンターの建設が県との協議が整い、本年度中の完成、七年度からの供用に向けて準備を進めているところであります。今後これを核とした福祉ゾーンの計画を進めてまいります。

文教関係につきましては長年多数の皆様からご要望のあります「文化産業会館」について積極的に検討を進め、年度内に計画の策定を行いたいと思っております。

また、町民多数のご要望の強い小須戸橋上流の運動公園地域一帯の整備については、国のすすめられている親水事業「みどりの五五作戦」に採択されるべく本年から計画の策定に着手し、早

の農村公園を隣接に造成を行います。国の第三次補正により予定より早く完成する見込みであります。今後さらに当町のシンボルとなるべき施設として整備を進めてまいりたいと思っております。

また、県の砂防事業「せせらぎと散策の森」と連携した当町のふるさと創生事業の「森林公園」についても菩提寺山との関連を計りながら本年は用地の取得を行い、具体的に事業化を進めてまいります。

懸案の温泉健康センターにつきましては諸般の事情を踏まえた上で、事業費の減額による事業内容の見直しを行いました。二十一世紀に至っても時代に通用する施設となるように最善の努力をいたしてまいります。なお、この施設は平成六年度内に完成するべく計画を進めてまいります。

また、町民多数のご要望の強い小須戸橋上流の運動公園地域一帯の整備については、国のすすめられている親水事業「みどりの五五作戦」に採択されるべく本年から計画の策定に着手し、早

い時期の事業化を目指して取り組んでまいります。

平成四年度から事業化・着工を致しております白根市・小須戸町他三村で組織する白根衛生センター組合によるゴミ処理場も総額四五億円の巨額な事業ではあります。建設工事も順調にすすみ、本年中に完成・試運転期間を経て、七年度より本格的に稼働することになりました。その愛称もグリーンセンターと名付けられ、衛生環境ク

るものと期待されております。特別養護老人ホーム施設につきましては、三市中東蒲原の広域事業として昨年は津川町に「東蒲の里」に当町分として一ベッド、また五泉市に建設中の「晋名の里」に三ベッド、また加茂市・田上町・小須戸町・白根市で組織し平成六年度に着工する田上町内の「ごまどう福祉会特別養護老人ホーム」に五ベッドと、時代の必要性にのっとり老人福祉対策の一環として積

極的に取り組んでまいります。また、地域住民の安心と生命財産を守るために消防庁舎の新築に取り組んでまいります。この事業は、一市一町三村で構成する白根地区消防組合で行う事業で、現在の本部施設の老朽・狭隘・非効率等を勘案して平成元年度より事業化をし、機動性のある最新設備を備えたものとして移転新築するものであります。

これらの広域圏事業につきましては多額の当町財源の投入が余儀なくされるところであります。地域福祉のために懸命に取り組んでまいります。

以上、主たる事業につきまして報告を兼ねて所信を述べさせていただきます。他の事業及び一般行政に於いても地域福祉の為、町民発展の為に最大の努力をいたしますので町民各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【3】